

柳 東弦 (リュウ ドンヒョン)

韓国出身

筑波大学 人間総合科学研究科体育学専攻 博士課程

スポーツを通しての平和

【スポーツと平和の関係】

平和の意味を考えると、主に国家間の戦争・紛争・対立などがない世の中であると捉えられるだろう。平和へと行く道のりの中では様々なルートが存在しているが、本稿では、スポーツが実施される舞台の一つであるオリンピック大会を通してみる平和の意味について記述したい。

4年に一度開催されるオリンピック大会は、スポーツを通してそれぞれ異なる諸国の歴史・文化などを理解・尊重した上で競う(メダルの獲得)だけでなく、国際社会の平和に資する世界的な祭典の一種である。さらに、相異なる各国の言語の壁を越え、スポーツマンシップを通して心からのコミュニケーションをすることができる場であり、チャレンジ精神や諦めない姿勢を学べる場の一つでもある。このように、世界的なスポーツ舞台であるオリンピック大会は、スポーツを通して諸国間の交流の場を形成し、より良い世界と未来を実現することができる力がある。そして、オリンピック大会で出場する選手たちは、自国の名誉やスポーツ界の発展・復興、または自分が目指している目標を達成するためにオリンピック精神を支えながら競技に尽力し、汗をかいている。新たなオリンピック大会の歴史に残されるようになるために競争している選手たちの様子を競技場で直接もしくはメディアなどを通して見た観戦者は、ストレス解消や生活の活力が生じたり、スポーツの魅力を感じてスポーツを観戦することに止まらず、実際に興味があるスポーツを学び始める場合もある。このことにより、国民の運動不足解消や個人の健康増進、強健な心身を育成することができるように

なるなど、国民の運動能力レベルが向上されると考えられる。そして、身体活動を通して断絶された家族との対話をする場を開く機会が生じ、家庭の平和にもつながるだろう。

【平昌冬季オリンピック大会での経験】

1950年6月25日に勃発した韓国戦争(朝鮮戦争)は1953年7月27日に休戦をすることにより、休戦ラインである軍事境界線(北緯38度線)が設けられ、それを基準として南北は現在まで分断されている。韓国では北朝鮮との平和のために民族共同体統一案を推進している中、2018年に韓国で平昌冬季オリンピック大会が開催された。特に、平昌冬季オリンピック大会で実施された様々な競技種目の中で、女子アイスホッケー競技種目は南北単一チームとして出場した。それは南北間に生じている葛藤を一定の範囲内で解消できる機会であり、平和的な雰囲気を作成しつつ対話の場を作ることににつながる。しかし、南北女子アイスホッケー単一チームを構成する際に批判の声もあった。その理由としては、南北平和という名目の下にスポーツと政治的な面を結びつけたことや、前を向いて走り続けてきた韓国女子アイスホッケー選手たちのオリンピック出場の機会の制限などがあったためである。このように、意味が深い平昌冬季オリンピック大会のアイスホッケー競技場で Venue コーディネーターとして働いていた私は、選手や観客の安全管理をしつつ目の前で南北女子アイスホッケー単一チームの競技を観戦することができた。その時、北朝鮮の応援団の大きな歓声を聞いた私は、そちらに目を向けるようになった。

南北女子アイスホッケー単一チームの競技が実施されるにつれ、北朝鮮の応援団のみならず

韓国人らも一緒に応援をし始めた。その様子を見た私は、一生涯忘れない感動を受けるようになった。その理由は、北朝鮮の応援団の歓声に合わせて韓国人らも一緒に応援をし、逆に韓国人らの応援方式に合わせて北朝鮮の応援団が呼応してくれたからである。また、私が見た限りでは北朝鮮の応援団と韓国人らは笑顔で一緒に応援をしていた。すなわち、平昌冬季オリンピック大会を通して南北民族が同所で会えるようになり、お互いに南北女子アイスホッケー単一チームを応援をすることにより分断された南北

間の心が一つになったと言える。

このように、国際社会の平和に資する世界的な祭典の一種であるオリンピック大会は、より良い世界と未来を実現する役割を担っており、スポーツ実践者としては目標を達成する夢の舞台であり、スポーツ観戦者としては生活の活力が生じる舞台であるなど、スポーツがもたらす効果は非常に大きい。要すると、オリンピック大会はスポーツを通して各国家の平和や個人の平和につながる道のりであると考えられる。



▲ 北朝鮮の応援団の様子(筆者による撮影)

以上